

## 第4次産業革命の社会で生きていく子どもたちを育むために

### 1 はじめに

機会があって、「未来を担う人材 ～人工知能AIの進化～」を演題にした講演会を聞くことができました。私には少し難しかったですが、第4次産業革命の社会を生きていく子どもたちのために、義務教育で育むべきことは何かということ意識しながら、聞きました。この講演会で学んだこと・考えたことを紹介します。

### 2 講演から学んだこと・考えたこと

#### (1) 基本的なこと

##### ○第4次産業革命 AIの出現

第4次産業革命では、AIにより、なくなる仕事がある。

しかし、新たにAIを活用した仕事が生まれてくるだろう。

従って、仕事が無くなってしまおうという心配はないだろう。

##### ○グローバル社会で生きてくために英語学習は必要か。

ジュニアサミットで語れない高校生の例から

英語で話せないから語れないのではなく、伝えたいことがないから、語れなかったのではないか。

##### ※ 伝えたいことが心の底から湧き上がるために

豊かな経験、多様な学び

話題について理論的に考えることができる。

伝えたいことを理論的に話せる。

##### ※ 多言語の優れた翻訳ソフトの普及が予想される。

それでも、英語で話せないより話せたほうがよいのだろうか。

英語ができないということで外国人と話すことに臆することにならないよという話も聞くが…。

#### (2) 義務教育で取り組むべきこと

##### ① 人格の形成 (「不易と流行」の不易の部分)

##### ② 授業や様々な教育活動で実践すべきこと

多様な学び 多様な方法による学び

理論的に考える場面の設定

理論的に表現する場面の設定 (話す・書く)

※ 限られた時間ではあるが、教科の授業でも実践する。

##### ③ 探究する学び

知識を覚えるのではなく、疑問から自ら探究するような学習を仕掛けていく。

### 3 おわりに

(2)①については、これまでどおりの実践で良いと考えます。

(2)②については、各教科の授業で、考える場面、話す場面、書く場面を設定すればいいです。主体的・対話的で深い学びを追求していけば可能なことであり、すでに進められています。多様な方法による学びの一つに調べ学習があります。各教科で一年に一度くらいは、図書室へ行って調べ学習をする機会が持てないでしょうか。計画的に授業を組まないと難しいです。

(2)③については、総合的な学習の時間がこれに当てられます。しかし、実際のところ、その時間の多くを

行事への取り組みの時間になっていないでしょうか。(そういった時間も必要であることに間違いはありませんが…) もしそうであるならば、総合的な学習の時間を使って実践している教育活動を、少しでも、あるいは、一部でも、自ら課題を見つけ、その解決に自ら取り組むという方向に変えていくとよい、変えていくべきと考えます。